



久喜市長 梅田 修一氏

## 市長のメッセージ

久喜市は、平成22年3月に1市3町の合併により誕生してから14年が経過し、埼玉県東北部の中心都市として発展してまいりました。

本市では、今後10年間の本市が進むべき方向性として、まちの将来像を『人が笑顔 街が元気 自然が豊か 久しく喜び合う住みやすいまち 久喜』と定め、SDGsの理念を踏まえたまちづくりを推進しております。

今後も、こどもからお年寄りまで、あらゆる世代が「ずっと久喜市に住み続けたい」と感じていただけるような、持続可能で魅力あるまちづくりを市民の皆様との協働・共創により進めてまいります。

## はじめに

久喜市は、関東平野のほぼ中央にあたる埼玉県東北部に位置し、都心から50km圏内にある。加須市、鴻巣市、白岡市のほか、茨城県の2市町を含め10市町と隣接している。

東北自動車道、国道4号及び国道122号が市内を南北方向に縦断し、東西方向に圏央道、国道125号が横断している。鉄道は、JR宇都宮線、東武伊勢崎線、東武日光線の3路線が通り、市内に5つの駅を有している。県東北部における道路や鉄道の結節点となっており、交通の利便性は極めて高い。

都心へのアクセスが良い一方で、豊かな自然にも恵まれている。四季を通じ色とりどりの花が咲き誇り、5月下旬から6月下旬にかけては、菖蒲行政センター周辺でラベンダーが見頃を迎える(表紙写真)。

また、日比谷公園や大宮公園をはじめ数多くの公園の設計に携わり、「日本の公園の父」と呼ばれる本多静六博士の生誕地としても有名である。



「BRIDGE LIFE Platform構想」の戸建街区の街並み

## ★「BRIDGE LIFE Platform構想」がグッドデザイン賞を受賞

東武日光線・南栗橋駅の南西500mほどに位置する南栗橋8丁目及びその周辺地区では、産官学連携による次世代型のまちづくりプロジェクト「BRIDGE LIFE Platform構想」が進められている。本プロジェクトには、久喜市、東武鉄道、トヨタホーム、イオンリテール、早稲田大学大学院小野田研究室の5者が参画しており、令和4年5月に街びらきが行われた。

総面積約16.7haの地区内は、4つの街区で構成されている。戸建街区では、先進技術を取り入れたスマートタウンが整備され、全172戸の住宅建設が進んでいる。商業街区では、スーパーマーケットなどの商業施設2棟がオープン。生活便利街区では、保育園や有料老人ホーム等が開所した。既存の遊歩道・公園は、市による改修工事が進行中である。

ハード面に加えソフト面でも新たな取組が行われている。「自動配送ロボット」や人がゴミに触れることなくゴミを集める「非接触ゴミ収集ロボット」の実証実験をはじめ、地元企業との協業による先進的な暮らしの実現にも取り組んでいる。

本プロジェクトは、令和5年10月、2023年度グッドデザイン賞を受賞した。産官学の5者がそれぞれの強みを生かしながら、環境配慮型・次世代型のスマートタウンを実現し、人口減少や高齢化といった課題の解決に取り組んだことが評価につながった。

今後も、企業と連携して新たな取組を実施するなど、本プロジェクトはさらに進化を続けていくことが期待される。

## 久喜市概要

人口(2024年4月1日現在)	150,756人
世帯数(同上)	69,435世帯
平均年齢(2024年1月1日現在)	49.6歳
面積	82.41km <sup>2</sup>
製造業事業所数(経済構造実態調査)	254所
製造品出荷額等(同上)	5,157.9億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	992店
商品販売額(同上)	3,487.0億円
公共下水道普及率	70.1%
舗装率	73.6%

資料:「令和5年埼玉県統計年鑑」ほか



## 主な交通機関

- JR宇都宮線 久喜駅、東鷲宮駅、栗橋駅  
東武伊勢崎線 久喜駅、鷲宮駅  
東武日光線 栗橋駅、南栗橋駅
- 東北自動車道 久喜ICから市役所まで約2km  
圏央道 白岡菖蒲ICから市役所まで約6km

## 2年連続でスポーツ庁「スポまち表彰」を受賞

市はスポーツ振興に力を入れている。令和2年に「<sup>けんこう</sup>健幸・スポーツ都市」を宣言し、令和4年には第2期久喜市スポーツ推進計画を策定した。運動やスポーツを通じて健康寿命を延伸し、「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」スポーツに親しめる「生涯スポーツ推進のまち」を目指している。

市内では様々なイベントが開催され、9回目を迎えた「久喜マラソン大会」では、市内外から多くのラン



市内外から多くのランナーが参加した「第9回マラソン大会」のポスター

ナーが参加した。主に小学生を対象にした「綱引大会」、ニュースポーツにスポットを当てた「スポーツ体験会」、「くき健康ウォーク」など、多くの市民が参加しスポーツに親しんでいる。

企業、プロチーム等と連携したイベントも実施されている。3人制バスケ「3X3」の大会「第2回3X3 KUKI HIGH SCHOOL CHAMPIONSHIPS」が開催され、市内5つの高校によるトーナメント大会のほか、久喜市をホームタウンとするプロチーム・埼玉ワイルドベアーズと東京ダイムのエキシビジョンマッチなど、熱い戦いが繰り広げられた。最先端のデジタルスポーツマシンを活用したフレイル予防イベントなども行われている。

こうした取組により、久喜市はスポーツ庁の「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰」を2年連続で受賞した。県内自治体では初めての受賞である。

今後は、様々なスポーツに取り組みやすい環境を整えるため、総合運動公園を改修し、3X3バスケットやスケートボード場などを整備する計画である。

## 「日本ICT教育アワード」経済産業大臣賞を受賞

久喜市はICT教育先進自治体としてトップクラスの学校教育を推進している。日本ICT教育アワードを2年連続で受賞し、令和5年度は「経済産業大臣賞」に輝いたほか、教育DXに積極的に取り組む自治体として「教育DX推進自治体表彰2023」も受賞した。

「『久喜市版未来の教室』の実現に向けて」をICT教育の柱に据え、「時間・距離に制約されないオンライン教育の実施」「一人ひとりに合わせた個別最適な学びの提供」など「久喜市版未来の教室4+1」のコンセプトに基づく取組を進めている。

家庭学習やテスト結果等を記録する「学びログ」を活用し、自ら学びを分析し自己調整することができる児童の育成を目指す取組や、オンライン上の教室「久喜市共同オンライン分教室KDX」の設置、アバターが参加するメタバースを活用した不登校支援等、誰一人取り残さない教育を実現する取組にも力を入れている。今後も、「未来を拓く力」を育む最先端の教育を推進していく。(樋口広治)